

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570600458
法人名	社会福祉法人 誠光福祉会
事業所名	グループホーム なぎさ
訪問調査日	平成 21 年 8 月 21 日
評価確定日	平成 21 年 9 月 10 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570600458
法人名	社会福祉法人 誠光福祉会
事業所名	グループホーム なぎさ
所在地	滋賀県草津市集町260-1 (電話) 077-568-5100

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成21年8月21日	評価確定日	平成21年9月10日

【情報提供票より】(平成 21年 7月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,300 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1700 円

(4) 利用者の概要(7月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人誠光会 草津総合病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは草津市郊外ののどかな田園地帯に在り近隣には民家は少ない。運営母体の総合病院は24時間対応の医療体制を採っており連携プレーにより健康管理面では安心できる。建物は平成16年建設の鉄筋コンクリート造りで1階9人、2階9人の2ユニットで構成されている。居間や食堂の共用場所は広くて明るく清潔感があり、モダンな温かみのある空間を考慮した設計になっている。居室は全室個室でベットと備え付け家具が設置されていて布団を敷けば家族も宿泊出来、喜ばれている。隣にはデイサービスも併設されており、デイサービス利用者とも交流して一緒に歌等唄って楽しんでいる。利用料は比較的安価に設定され、職員も全て正規職員で安定しており明るく利用者に対応している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である地域密着サービスとしての理念作り、日々の取り組み、評価の意義を理解することについては改善されているが、運営推進会議を活用した取り組みや職員を育てる取り組みは出来ていない。外部評価を職場サービスの向上と自己成長を考える機会と位置付け積極的に熱意を持って課題改善に取り組むことを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員の全員参加で討議を行ったものを管理者がまとめたもので職員は各自目標をもって活動を開始している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議開催は昨年からの課題であるが未だ実現していない。基本理念には地域社会に積極的に参加すると掲げており早急に町会長、老人会代表、家族代表者、地域包括支援センターに声をかけて、省令の定めに従い2カ月に1回推進会議を開催して現状の報告や意見の吸収を行ってサービスの向上に生かすことを望む。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には2ヶ月毎に「なぎさだより」を送付し行事や個人の情報、写真等を提供している。家族が来訪する頻度は比較的多いのでその都度意見や苦情、不安なこと等を聞きだす努力をし、夏祭り等の時には家族を招待して交流を深めている。苦情相談窓口は重要事項説明書に記載し玄関にも張り出している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元との交流は少なく自治会活動への取り組みは今後の課題となっている。地元中学校の体験実習を定期的に取り入れており、今後小学校、幼稚園へと広げることと老人会へ認知症の研修講師として招かれている事も生かして地域への密着度を高めることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく安心して暮らせる家」となる様に「自分らしさを保てるよう地域社会に参加する生活を送る」との理念を創りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所と居間に掲示するとともに、管理者と職員は毎日夕方の業務引継ぎ時に唱和してホームの理念を理解し実践することに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会活動や老人会活動等の交流は出来ていない。地元中学校の福祉体験学習に年間4人～5人を定例的に受け入れている。		自治会や老人会へのアプローチを積極的に進めると共に、小学生、幼稚園児等にも体験学習を展開して認知症施設としての理解を得られることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価表を作成し、職員会議での討議に参加し、まとめを管理者が行い各職員は目標をもって日常業務の改善に取り組んでいる。		各職員の取り組み項目の進捗状況を職員会議で討議して確実な進展を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は実施していない。	○	運営推進会議の開催は省令に定められており、早急に地元自治会代表、老人会代表、家族代表、地域包括支援センターに話をして参加を要請し、2ヶ月に1回は開催することを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口である包括支援センターの担当者とは月に1～2回訪問して現状を報告し、重度化した利用者の対応等について指導も受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「グループホームなぎさだより」を2ヶ月毎に発行して、行事や利用者の写真と生活情報を記載して家族に郵送している。家族来訪時には日常の様子、小遣い帳、職員の異動等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や夏祭り等の行事に参加して貰った家族から苦情や意見を聞きだす努力をし、聞いたことは職員会議で討議して日常業務に反映している。玄関には苦情と相談窓口を明示し重要事項説明書にも明記している。		家族会を作りさらに家族からの意見を吸い上げ運営に反映することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全て正規社員のため退職者は少なく、職員の個性が活かされている。1階と2階の担当が変わる場合は2週間程度の重複期間を持って利用者と家族に説明して理解を得ている。「なぎさだより」にも担当職員名を明記している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供はしているが、費用負担を含め受講するか否かは個人の判断に任せられており計画的な人材育成はなされていない。	○	職員個人別の育成計画表を作成し、キチッと事業計画に位置付けて計画的に人材を育成して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は淡海グループホーム協議会に参加しており同業者との交流に努めている。		草津市内の同業者の交流会に職員を積極的に参加させ、他職場を見学し、話を聞くことで視野を広げることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込み時に利用者と家族に見学に来てもらい話し合いを行い、さらに職員が家庭訪問をして利用者の生活歴を家族から教えて貰いお互いが馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の若い時の戦争体験や職業の話聞きとり、利用者から職員たちの知らない人生経験を教わり、利用者の過去の生き様を理解して信頼関係を深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話のなかから本人の希望や意向を汲み取りこれに応えられるように努めている。本人の意思表示が困難な場合は家族と相談している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、本人や家族から意見を聞き取り、7人の職員全員でチームとして検討し、協力医と相談して介護計画をまとめ、家族に説明し意見と同意を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度の見直しを行っている。3か月以内に状況変化が生じた場合には随時対応して月に1度の職員会議で見直しを確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年末年始の外泊支援や家族がホーム内で同泊が出来るようにしている。病院受診も家族からの依頼があれば送迎も対応している。母体の病院とは24時間対応の医療ネットワーク体制を採っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院は家族がすることを原則としているが家族から応援を求められれば対応している。利用者の日常の状況は手紙に書いて医者 ^に 理解して貰える様に配慮している。緊急時は協力医に対応をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合やターミナルケアについては方針が纏まっておらず入居時に説明をしているが、その後は説明していない。	○	事業所の方針を明確にして文書化し、契約時に利用者と家族の方々と話し合いをして考え方の共有化を図ると共に、常日頃考え方の確認をして都度文書で記録を残すことを望む。年々高齢化が進んでおり早急に対応することを検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対し尊敬の念を持ってやさしい言葉かけに徹している。個人情報の取り扱いは就業規則に明記し、職員は誓約書を提出している。個人情報書類は事務所の鍵付保管庫に収納している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は各人の生活パターンと各人の要望を聞き取りテレビを観たり、話をしたり、畑仕事や、散歩等個人のペースに合わせて過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備後片付けの出来る人は職員と一緒にいる。職員も一緒に食事をしながら残さないように一人一人に声をかけて楽しい雰囲気を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきで1階は夕方、2階は夕食後を基本としているが、各人の希望を聞きながら柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や水やり、チギリ絵、歌を唄ったり、昔の趣味を思い出しておこして、その日の気分に応じて行われることを支援している。		年々体力が衰えて行くための防止策として、午前と午後に簡単なリズム感のある体操をすることを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の好きな人や買い物に行きたい人、外食をしたい人への支援をしている。隣のデイサービスへも遊びに行っている。年間行事としてお花見、アジサイ見物、水生植物園、初詣等で外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や共用空間には施錠がない。グループホームの前の道路は大型トラックが走るため玄関は日中施錠している。		玄関にセンサーを取り付けるか、道路までに扉を追加するなどして施錠しない工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練は行っているが利用者は参加していない。消防署から来て貰っての実地指導も受けていない。避難通路は確保している。	○	緊急時対応マニュアルを早急に作成し、年1回は利用者も参加した避難訓練を実施し、消防署の立会いによる実地指導も受けて貰いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表にはエネルギー量や水分量が記載され、栄養面の配慮も出来ている。水分量はおやつ時の水分量も含めて介護記録表に記入し管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く両面ガラス窓で明るく、掃除も行き届いて清潔感がある。食堂と居間の壁には行事の写真が貼られ利用者が作ったチギリ絵も飾ってある。テレビの前には畳を敷いて和室の感じを出し季節感のある花を飾っていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室洋式の部屋にベッドと収納庫とエアコンが取り付けられている。利用者は自分の使っていた小物入れや家族、孫の写真を飾って自分らしい部屋作りをしている。		